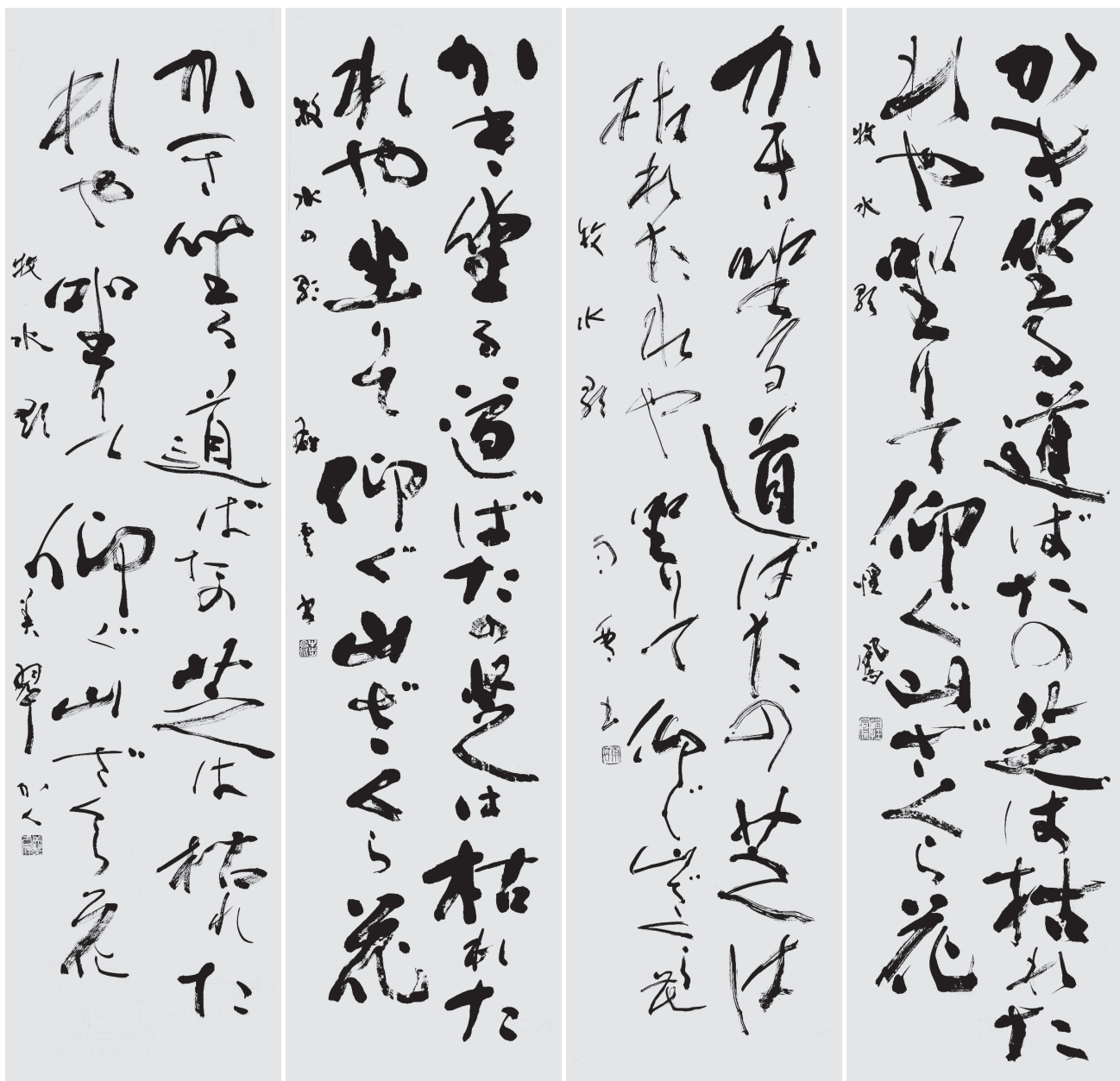


高野清玄先生選評



加藤 惶鳳 推選
全体を貫く呼吸が良い。強弱の配合が素晴らしく墨の潤渇、線の細太、漢字仮名の配置と構成が上手く書かれている為、行間の響き合いが美しく感じられる佳作。

森川 雨琴 推選
堅い筆を柔らかく使うという事が上手く出来ている。筆毛の堅さに逆らわず自然体でその弾力を活かしている。二行目をやや小さくして上手くおさめられている。

渡辺 雄雲 推選
たつぷりの墨で、肉厚な筆毛を使いこなした。文字の周囲の空間を取り作品として余裕を見せている。派手な技法は使っていないが、素朴な雰囲気が好き。

木村 美翠 推選
鷗亭先生の細めの線での作品が再現された様で嬉しい。細線ながら筆の開閉が行なわれて変化と動きがあり生命感が表現されている。余白が美しく明るい作である。

江幡太瓏先生選評



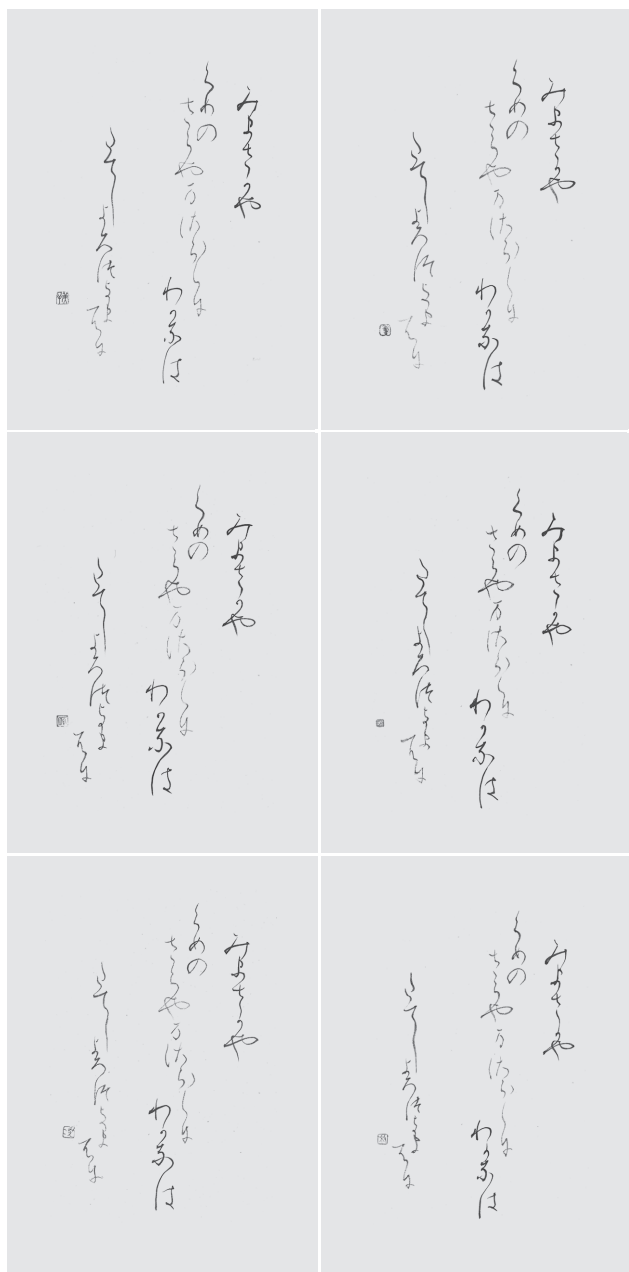
奥村峰子 推選
下三分の一が少し寂しい。
「祿・軍」でもっと墨入っても
良かったか。筆庄、リズム
素晴らしく特に「使持節」の
渴筆が輝いている。一行目
も五字目位に渴筆が欲しい。

越智知美 推選
墨量充分で顔真卿の向勢を
見事に表現できています。
墨量充分の分、渴筆が足り
ないかな？早めに吸い取る
か遅速の速の調整で軽すぎ
ない渴筆を出したかった。

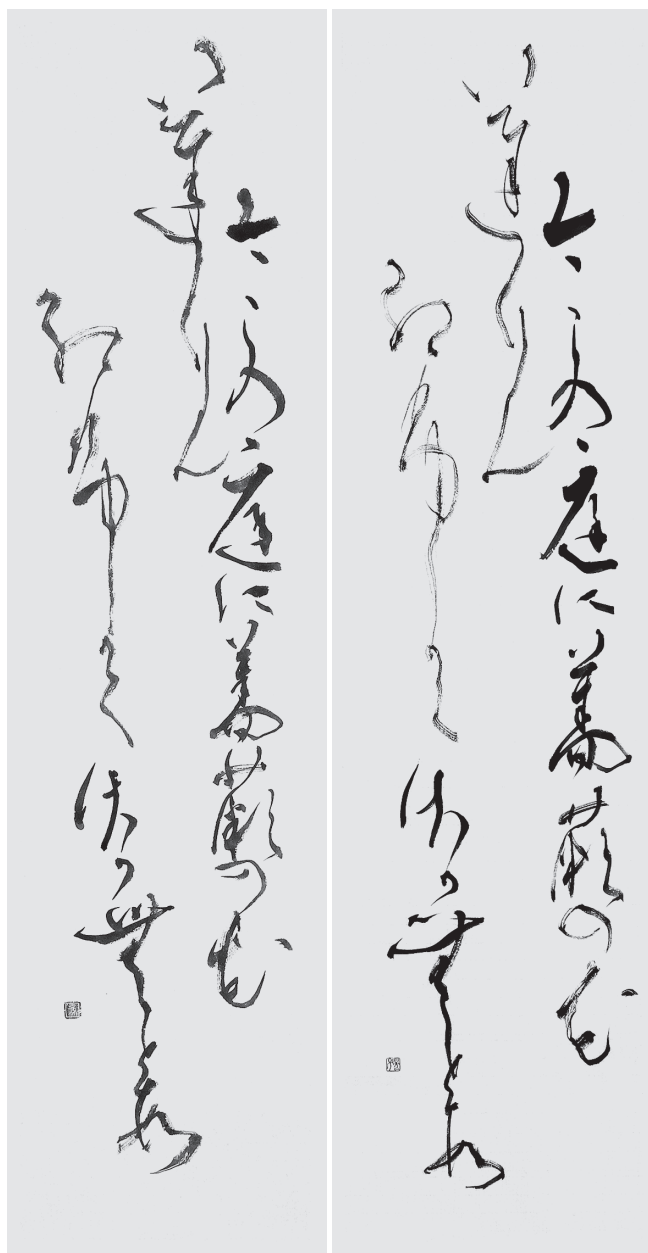
藤井碧峰 推選
握り柔かく潤渾・大小・太
細の変化が見事で良いリ
ズムで書けています。良いリ
ズムが若若しく生き生きと
した線を表出しています。
落款もお見事あつぱれ！

鈴木壽桃 推選
二行目三〜四字大きい、
線は素晴らしいです。一行
目「十三」を太くするか「光」
をもっと大きくすれば調和
できたのかもしれませんがね。
やはりリズムがいいですね。

赤富士北祭先生選評



吉澤真理先生選評



東谷美子 準師
筆の開閉自在に、
渴筆部での情感の
表現は見るものに
心地よく響いてい
る。細字だが拡大
臨書なので、何か
を加えると創作の
糧になるでしょう。

清水千寿 師範
高野切第一種の特
徴の一つである奥
行きを見事に表現
している。直筆を
中心とした中に優
しさを秘めた線が
影の役者となつて
いる。

中屋友里恵 七段
瑞々しい伸びやか
な線の表現は、麻
紙に書かれた高野
切そのものである。
余白の美しさに余
裕がみえ流石！豊
かさという点にお
いても原帖に通じ
ている。

木下朋春 師範
大胆な大字仮名作
品の中に格調を見
せる流石の方だが、
このように古筆を
丁寧に読み取り臨
書される態度があ
つてのこと。適度
に抑揚があり素晴
らしい！

上田華瑤 準四
穂先を利かせなが
ら、墨量も程よく
ポイントを押さえ
て書かれた作。こ
の作も直筆が主体
であるため落着き
のある臨書作品
となった。

小澤ふさ子 準師
ゆったりとした運
筆で美しい作だ。
時折紙に食い込む
ような筆をつくよ
うな筆致が余白に
線を響かせている。
含墨したところも
ピリツとして効果
的である。

川並ともみ 推選
筆庄の変化に富んだ連筆で
動きのある明るい作品とな
りました。二・三行目が斜
めに流れ、行の響き合いが
あり、バランス良く収まっ
ています。

松下晃子 推選
緩急のリズム良くそこから
生まれた深みのある多彩な
線の移ろい見事です。紙面
の捉え方、的確で冴えた墨
色と相俟って余白の美しい
作品となりました。

葛西玄涛先生選評



木村秀栖 師範

横画の起筆の強さから鋭い直線が生じた。太い線を多くしながらも筆の動きが滑らかで軽快なので、紙面いっばいに明るい作品になっています。

佐藤鷺青 八段

筆管の傾きを適度に変える手首の柔らかさが、やや側筆の渴筆となり、作品に濃淡、遠近の変化を付けた。滞りのない活発な動きも魅力がある。

渡部浩美 師範

筆を紙に沈めていく太い重厚な線が多くて、どっしりと安定しています。紙から離れていく筆の、次の線に向かう動きが空間でゆったりして雄大。

小浜佳子 六段

細かく動く曲線を巧く配置して、直線をより強い印象にした。「悲」の縦画の角度、線の強弱などは、高い臨書技術を見せています。驚きました。

石田雅子 師範

筆の柔らかさを巧く利用した弾力のある線を多くしながら、渴筆を少し混ぜて、緊張感をもつ直線を演出した。潤筆はゆったりの余裕がある。

安永頼光 準七

原本の文字の表情をしっかりと捉えて、臨書されています。「敬」の扁と隣の面積、高低、線質と角度等を見事に忠実に書けていて、驚きました。

中村由美子 八段

細線の密になっていく部分が爽快だ。重厚な線の部分は、渴筆で軽快にして、作品全体を軽妙な美しさで満載にした。線の変化が文字を大きく見せた。

城内薫乃 準六

腕の動きの大きさは紙面よりほかに遠くまで及んでいる。遠勢のお手本になるほどでありながら、美しい品格を持っていることが、貴重です。

鳥居柳清 準師

筆管が垂直に近い状態が多くあり、直筆から発生する美しく爽やかな線が、好印象です。重厚な線の臨書でも直筆によって、表現に幅ができた。

飯倉妙香 六段

とても真摯に取り組まれた作品です。落ち着きのある安定した優しい線が多く見られて、主張の強い作品が多い中、安らぎを感じさせる芸術作品です。

久野峰扇 準八

重い線が随所にあるながら、流暢な輝きを放つ。落筆だけでなく、抜筆も高いので、動きが激しく、迫力があり、原本に近い魅力を持っている。

桜庭紅生 二段

安定して沈着した作品の中で、それぞれの文字の中に速度的変化を明確に付けた線が、生き生きと動いている。生命力の強い作品として、感動。